

彦坂千津子 (みらい会員) のタイ (チェンマイ) 滞在 (留学中) 報告

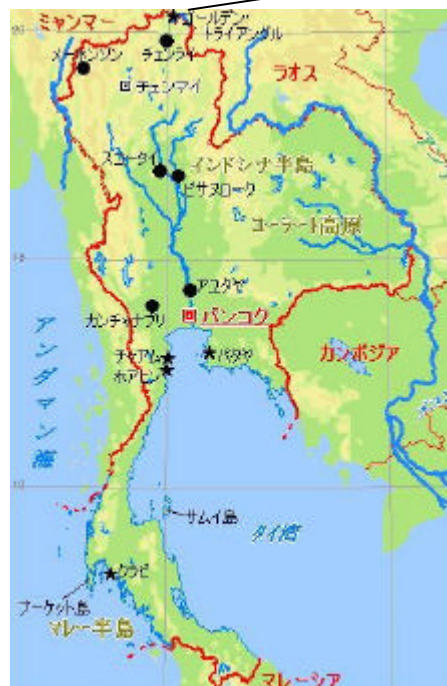
10月研修会 10月5日 (月) ウィズ豊川

参加14名

梅林正直さんの ひとりぼっちの木の根運動



三重大学名誉教授。農学博士。土壌学専門。1979 農業指導のためタイに派遣され、タイとの関わりができた。1932 生。



▶ゴールデン・トライアングル(タイ北部、ラオス、ミャンマーと接する地帯)は、マフィアの暗躍する麻薬製造工場であった。

世界で流通する 70%の麻薬を密売・取引があるケシを山岳民族(アヘンの村)が安い賃金で栽培していた。生活は貧困を極め、梅林さんは、彼らを放っておけないと思った。

タイ政府主導で麻薬撲滅運動として、ケシの代わりになるものをと栽培援助を行っているが、奥地の国境地帯では様々な命の危険が伴うため行き届かなかった。

そこで梅林さんは梅を勧めた。標高 1,500 メートルの山岳地帯は、寒暖の差があるので梅栽培に最適であった。山岳地帯からでも出荷がしやすい。また国際価格の変動に影響を受けにくく、梅酒、梅干、梅肉エキスなど加工が容易、さらに現在タクシン首相が進めているような「一村一品運動」にも適するからだった。

しかし、そこは危険地帯でタイ、日本両国政府からの現地派遣と資金援助は不可能であった。そのため、個人でまず費用を出して、独りでやる事が一番いいと考え、たとえ自腹を切っても救ってみせる決意で、自費での現地調査の3年後、1995年6月、まず300本の梅の苗木をバンコーン村で植樹した。

その後バンコーン村の梅は、植樹から3年半たった99年3月に大きな実を結んだ。ちょっと赤みがかかり、皮はそれほど硬くない。商品として申し分のない出来だった。辛抱強く待った甲斐があったと村長を筆頭に400人の村人は大喜び。梅林さんも感動が込み上げてきたという。この成功話はたちまち他の村にも広がり、梅の寄贈・植樹指導を求める声が上がった。

梅は現在、チェンマイとチェンライにある中国・台湾系の梅加工会社に生の青梅の形で売っている。桃の実の約五倍の値段で売れるので、桃から梅に変える村人も増えてきているという。また将来的には、梅酒などに加工して売ることにも計画していると梅林さんは笑顔で話す。タイ初の国産梅は、様々な食品加工の可能性ある。(梅の塩漬け、梅の砂糖漬け等)

梅林さんの活動は日本のマスコミにも紹介され、このボランティア活動へ参加させてほしいとの申し出も出てきた。だが、ボランティアは個人でやるものであり、万が一事故に遭われても保証はできないとの理由で、丁寧に断っている。

タイには年2回、乾期3カ月と雨期3カ月滞在し、チェンマイに家を借りている。乾期には各村を回りながら現地調査、苗木の購入・輸送準備をして、雨期にこれらを寄贈・植樹する。また、標高1,500メートル以下の村にはマナオ(タイのライム、タイ料理に使用)を植えた。梅の苗は台湾からタイに入った品種で、王様のプロジェクトのドイ・アンカーンで苗として生産されたものを半年前に予約して購入する。費用は年間約150万円かかるという。渡航費などが50万、家賃や食費で50万、苗木代が50万の計算。梅林さんはこれらを貯金と、日本での講演などの稼ぎで補っている。年金には手をつけていない。

今までに、梅林さんは植樹のために2000万円を投じた。梅、約2万2000本、マナオ、約1万4000本。

タイにおける国際協力を推進した功績が認められ、2000年、観光省よりタイ国友好賞、2008年、外務大臣表彰が贈られた。

2009年7月31日テレビ東京「世界を変える100人の日本人」で紹介された。

私が山岳民族を助けようと思ったのは、彼らがここ120年の間、中国やタイ近隣国の内乱、戦争、革命、軍事政権の抑圧などによってタイに逃げてきた国際避難民だからです。彼らを助けるには、こちらも命がけの決心が必要なのです。



第9回チェンマイ七夕植樹祭(2009/7/4~9)

梅林さん主催。日本からも今まで大勢の人が参加し、タイ各地に木の寄贈と植樹をする。

今年は、チェンマイのクアンパーク寺院で977本を寄贈。毎年100本ずつ本数を増やしているが、七夕の7月7日に絡み、下2桁の77の数字だけは変えない。タイの北西部メーホンソンのクンユアム中学校では200本のマナオを寄贈、植樹。七夕飾りで全校生徒が出迎えてくれ、歌での交流などをおこなった。この中学校には日本人の女性ボランティアが日本語を教えており、日本語の歌(『七夕の歌』)や日本語での祝辞も上手だった。次のメーラー村ではマナオの樹を300本寄贈。お礼にと地元の子供達がきれいな衣装で踊りを披露してくれ、村長の家で食事をご馳走になった。

彦坂千津子談

梅林先生宅はチェンマイの私の自宅から歩いて20分程の近所。時々訪問し交流しています。植樹活動にも参加しています。たったひとりの思いが他の人を動かし、つながり、さらには国をも動かす力となったのは、誰をも人間として尊重する梅林先生の姿勢にあるのだと学びました。このことは、みらいの活動の参考になると思います。

現在、タイ国立チェンマイ大学で「パーリ三蔵と三界経」の研究中。タイ語がままならず苦労していますが、学問に真面目で熱心に取り組んでいる若い学生の姿には感銘を受けます。構内では女性らしくスカートをはくように注意されあわてたことがあります。男性で僧侶になる人が多いせいか、女性の独身者が多いようです。大学にも女性の先生が多く見受けられます。男女を問わずオートバイを交通手段にしていますが、気楽に同乗を誘うのには驚きました。また、ある日男性が女装してきて仰天しましたが、よくあることのように、何事もないように接しているタイ人の大らかさには心から感動しました。

豊川市男女共同参画推進条例制定記念フェスティバル

～みんなで活かそう! 男女共同参画推進条例・それは未来への道しるべ～

11月15日(日)10:00~16:00 豊川市勤労福祉会館 主催:豊川市

講演 『なぜ男女共同参画が必要なのか? ~私が変わる私の人生~』杉本貴代栄金城学院教授	13:30~15:30
料理 『パパと作ろう! 親子いなり寿司作り体験教室』	10:30~12:30
絵本読み聞かせ	10:50~12:00
チャリティーバザー	10:00~12:00
ステージ発表(合唱 太鼓 踊り)	10:40~12:00
パネル展示	10:00~16:00

